

まじあしきがガキリは

實よりとびて、舟に乗て送る。

千じやと伝所にて船をあげれば、

前途三千里の想ひ胸にふさがりて、

幻のちまたに雀別の泪をまづぐ。

### 行春や鳥啼魚の目は泪

是を天立の初として、行道なを

すつます。

人々は途中に立ならびて、後がけの

みゆる迄はと、見送るなるべし



松尾芭蕉「おくほそ道」千住よりおびら書